

2.農業新技術の概要

1)平成元年防除上特に注意を要する病害虫

中央農業試験場 病虫部

この成績は昭和63年に道立各農試、北農試、各病害虫防除所及び道農業改良課が実施した発生予察事業並びに試験研究の結果から、主要病害虫の発生状況と新発生病害虫を総括し、その中から防除上特に注意を要する病害虫についてとりまとめた。

1.昭和63年に多発した病害虫

作目	やや多 ~ 多発した病害虫
水稲	ばか苗病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、アカヒゲホソミドリメクラガメ
小麦	うどんこ病、眼紋病
大麦	斑葉病
小豆	炭そ病、アブラムシ類、ハダニ類
菜豆	炭そ病
馬鈴しょ	アブラムシ類
てん菜	テンサイモグリハナバエ
リンゴ	モニリア病、黒星病、斑点落葉病、モモシクイガ
野菜類	タマネギのネギアザミウマ、ネギの黒斑病、ネギアザミウマ、ハクサイのアブラムシ類、トマトの灰色かび病、うどんこ病、ナスの灰色かび病、ハダニ類、キュウリの菌核病、アブラムシ類、ハダニ類、メロンのアブラムシ類、ハダニ類、スイカのアブラムシ類、ハダニ類、イチゴの萎ちよう病

2.昭和63年に新たに発生または命名された病害虫

ムギのムギウスイロアブラムシ：Metopolophium dirhodum 茎葉に寄生加害。

とうもろこしのアカヒゲホソミドリメクラガメ：Trigonotylus coelestialium 種実を吸汁加害。

馬鈴しょのトマト輪点ウイルス：接種葉でえそ斑点を生ずる。

ソバのヒメシロテンアオトウ：Trachea melanospila 茎を喰害。

ニンジン黒すす病：Chalara thielavioides 根部に全面にすす状黒斑症。

オウトウのフタバアシトケバエ：Bibio deceptus 果実の奇形品質低下。

スターチスの灰色かび病：Botrytis cinerea 主に花(ガク)花梗が褐色に腐敗、被害大。

スターチスの株腐病：Rhizoctonia solani 下葉や茎の地際部が腐敗、株枯。

シュッコンカスミソウの黒斑病：Alternaria sp. 花梗に褐色～黒褐色の斑点、発病部で折れる。

シュッコンカスミソウの茎腐病：Rhizoctonia solani 地際の葉、茎に不整形病斑、株枯。

グラジオラスのグラジオラスアザミウマ：Thrips simplex 葉、花に寄生加害。

ヒエンソウのトリカブトフクレアブラムシ：Delphinobium yezoense 花に寄生加害。

ハマポウフのべと病：Plasmopara nivea 葉に病斑形成。

シイタケのオンシツケナガコナダニ：Tyrophagus neiswanderi 子実体、ほだ木に寄生加害。

3.特記される病害虫

1)小麦の眼紋病、水稲のイネミズゾウムシ、馬鈴しょのジャガイモシストセンチュウ(発生分布の拡大)

小麦の眼紋病は全道の麦作地帯のほぼ全域に拡大した(図1)。水稲のイネミズゾウムシは石狩、留萌及び空知地方で発生分布が拡大し、今後発生の増加が見込まれている(図2)。

2)リンゴのモニリア病(発生の増加):近年少発生に推移してきたが、昭和63年は各地で多発した。本年は越冬菌核密度が高いと予想されるので充分注意が必要である(図3)。

3)豆類及び野菜類の灰色かび病(耐性菌の分布拡大):昨年の十勝地方に加えて、ベンゾイミダゾール系及びジカルボキシイミド系殺菌剤に耐性を有する豆類の灰色かび病では上川、空知地方に認められた。更にトマト等の野菜類の灰色かび病菌においても渡島、檜山、上川、十勝地方で耐性菌が広範囲に認められた。

4)水稲のイネドロオイムシ(殺虫剤抵抗性):カーバーメイト系や有機リン系殺虫剤の薬剤感受性の検定を実施した結果、抵抗性個体群が広域的に分布していることが確認された。今後、同一系統の薬剤の連用を避けて、ローテーションをはかることが重要である(表1)。

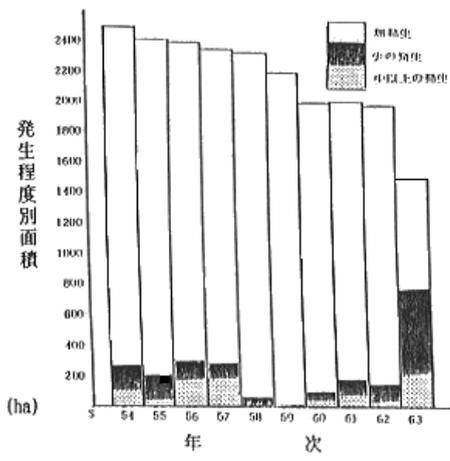


図3.リンゴのモニリア病の道内発生状況